

東日本大震災とダークツーリズム

β版
井出明

1. ダークツーリズムとはなにか？

- 戦争や災害の後といった人類の悲劇を巡る旅
(目的は、論者によって
ずれる→娯楽もあり)
私は、悲劇の承継による
教訓化や悲しみの共有
は大切だと考えている。

2. 東日本大震災の遺構の現状①

- 基本的に人が死んだところは残らない
岩手→全滅が確定
福島→手がついていないところ多数
宮城→南三陸町ぐらいか
石巻市が必死に消す大川小学校
七十七銀行が消してしまった女川

2. 東日本大震災の遺構の現状②

- 「見るのが辛い」は、本当なのか？
←行政の怠慢の言い訳になっていないか？
辛くなくても消していく
大川小学校の場合は、
行政に都合の悪い記憶を消す
福島「原子力 明るい未来の エネルギー」
- そもそも多数決型民主主義で決めていいことなのか？

3. 記憶の承継の問題点①

- 防災学者は防災しか見ない
連続性の観点から災害を捉えていない
人と防災未来センターへの歴史学からの批判
- ある日、突然災害が起こっている
長田の街の木造住宅は、
社会的な要因があり、人災の側面がある
※したがって、戦争と災害を安易にわけないこと
で本質が見える
(包括概念としてのダークツーリズム)

3. 記憶の承継の問題点②

- 都合の悪いことは記録しない
神戸市の記憶の承継の問題点
綺麗なことしか記憶しない
山口組と在日問題がない

神戸だけの問題なのか
(後述)

3. 記憶の承継の問題点③

日本の復興博物館

- 美談で終わっている
 - みんないっしょに力を合わせて頑張った本質的に承継されなかった記憶
 - ex.1 奥尻と石巻の公金不正
 - ex.2 奥尻の監獄的防潮堤
 - ex.3 中越の悲劇(ショック死→福島)
 - ex.4 長田の商店街が抱える訴訟
- ←これを扱う以上、復興ツーリズムではない
 “復興”と衝突する場面は当然ある
 地域の人が嫌がっても承継すべき価値だから、“ダーク”ツーリズム

3. 記憶の承継の問題点④

- 愛国博物館→レニングラード防衛博物館
- 教訓の承継ではなく地域の拠り所としての機能

3. 記憶の承継の問題点⑤ (日本の世界遺産問題から)

- 産業遺産
 - キリスト教遺産(怒られた)
- ←ヨーロッパ型ダークツーリズム
 (光と影、天国と地獄、生と死)
 知覧、ゼロ戦、カミカゼアタック怒られまくり

4. 説得の論理①

遺構のある所で説得する？

- 実は、あまり訴求力がない

「戦争と災害は違う」
 「遺構がなくても記憶は承継できる」

4. 説得の論理②

- ハードがなくなると記憶も承継できない
 (元は紋別で説得していたが、
 今は素晴らしい世界遺産がw)

5. 遺構を使ったまちづくり①

バンダアチェ

5. 遺構を使ったまちづくり②
ニュルンベルク

5. 遺構を使ったまちづくり③
ゲルニカ(かなりシリアス)

5. 遺構を使ったまちづくり④
&ダークツーリズムの失敗事例
ラクイラ

5. 遺構を使ったまちづくり⑤
承継の失敗事例

- 福島「原子力 明るい未来の エネルギー」
←左派運動との結合
政治運動と結合すると残らない
cf. 山口菜香亭

6. 再び、「ダークツーリズムとは何か？」
日本に特殊な構造は何か？

- 女川七十七銀行、石巻大川小学校
(権力と“御用住民”に抗うダークツーリズム)
←イジメと同じ構図、“ローカル非国民”に寄り添う
※東北(福島)の「寄り添い」は、権力との連携か？

→「様々な被災者」を捨象する人が批判者
三陸海岸で言われる「二度目の被災」
「我々は水で殺され、そして土で殺された」

6. さらに再び、「ダークツーリズム」とは何か？

1. 運動体としてのダークツーリズム
レノン先生と南京
↓(日本の若者、中間層を説得できない)
2. 左右対立を超えたダークツーリズム
↓
3. 歴史修正主義との戦いとしてのダークツーリズム
(ex. ハルビン731, 登戸研究所,
明るく元気な“福島”)